

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年1月10日
【四半期会計期間】	第94期第2四半期（自 2019年9月1日 至 2019年11月30日）
【会社名】	株式会社中北製作所
【英訳名】	NAKAKITA SEISAKUSHO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 宮田 彰久
【本店の所在の場所】	大阪府大東市深野南町1番1号
【電話番号】	(072) - 871 - 1331
【事務連絡者氏名】	経理部長 林 昌宏
【最寄りの連絡場所】	大阪府大東市深野南町1番1号
【電話番号】	(072) - 871 - 1331
【事務連絡者氏名】	経理部長 林 昌宏
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第93期 第2四半期 累計期間	第94期 第2四半期 累計期間	第93期
会計期間	自2018年 6月1日 至2018年 11月30日	自2019年 6月1日 至2019年 11月30日	自2018年 6月1日 至2019年 5月31日
売上高 (千円)	10,147,244	9,265,658	19,084,237
経常利益 (千円)	814,569	675,410	1,325,949
四半期(当期)純利益 (千円)	558,387	462,453	907,927
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	1,150,000	1,150,000	1,150,000
発行済株式総数 (千株)	3,832	3,832	3,832
純資産額 (千円)	21,350,243	21,652,475	21,247,518
総資産額 (千円)	26,839,051	27,885,610	26,542,827
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	153.45	127.49	249.87
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	50.00	50.00	100.00
自己資本比率 (%)	79.55	77.65	80.05
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,237,442	276,452	2,055,481
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	481,776	424,287	1,280,416
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	414,381	218,672	596,046
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	3,442,124	4,199,271	3,279,858

回次	第93期 第2四半期 会計期間	第94期 第2四半期 会計期間
会計期間	自2018年 9月1日 至2018年 11月30日	自2019年 9月1日 至2019年 11月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	71.51	101.93

- (注) 1. 当社は、潜在株式がありませんので、数値を記載しておりません。  
2. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。  
3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1)財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢の改善などを背景に、景気は緩やかな回復基調で推移しましたが、米国の通商政策などの影響も懸念され、景気の先行きは不透明な状況が続きました。

当社の主要な受注先の造船業界では、環境規制に伴う改造需要等があったものの、新造船市況は依然として低調な状態が続いており、価格競争も厳しい状況にありました。このような経営環境にあって、当社は短納期対応も含めた受注活動を展開し、修理やメンテナンス関連の受注獲得にも注力しました。

当第2四半期累計期間における受注高は、8,310百万円（対前年同期比16.7%減）となり、1,670百万円前年同期を下回りました。品種別にみますと、自動調節弁4,171百万円、パタフライ弁1,927百万円、遠隔操作装置2,211百万円となり、対前年同期比では、自動調節弁が580百万円、パタフライ弁は825百万円、遠隔操作装置は264百万円の減少となりました。

売上高では、9,265百万円（対前年同期比8.7%減）となり、881百万円前年同期を下回りました。品種別では、自動調節弁4,482百万円、パタフライ弁2,423百万円、遠隔操作装置2,360百万円となり、対前年同期比では、自動調節弁は210百万円増加したものの、パタフライ弁は556百万円、遠隔操作装置が535百万円の減少となりました。輸出関連の売上高は、1,199百万円となり、前年同期を112百万円上回りました。当第2四半期会計期間末の受注残高は期首に比べて955百万円減の9,479百万円となりました。

利益面では、営業利益は585百万円（対前年同期比17.6%減）、経常利益は675百万円（対前年同期比17.1%減）、四半期純利益は462百万円（対前年同期比17.2%減）といずれも前年同期を下回りました。

なお、当社はバルブ及び遠隔操作装置製造・販売事業の単一セグメントであるため、上記経営成績についてはセグメント別に代えて品種別に示しております。

当第2四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末と比べ1,342百万円増加の27,885百万円となりました。これは主として、売上債権が711百万円、有価証券が199百万円、たな卸資産が144百万円、有形固定資産のその他(純額)が324百万円、投資有価証券が608百万円それぞれ増加したものの、現金及び預金が580百万円減少したこと等によるものであります。

負債合計は、前事業年度末と比べ937百万円増加の6,233百万円となりました。これは主として、仕入債務が563百万円、未払法人税等が113百万円、長期借入金が400百万円それぞれ増加したものの、流動負債のその他が141百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前事業年度末と比べ404百万円増加の21,652百万円となりました。これは主として、四半期純利益が462百万円、配当金の支払181百万円により、利益剰余金が19,249百万円となったこと、また、その他有価証券評価差額金が348百万円（前事業年度末と比べ123百万円の増加）となったこと等によるものであります。

#### (2)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べて919百万円増加し、当第2四半期会計期間末の資金残高は4,199百万円（対前年同期比22.0%増）となりました。

また、当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動の結果獲得した資金は276百万円（対前年同期比77.7%減）となりました。

これは主として税引前四半期純利益が675百万円（対前年同期比17.1%減）であり、減価償却費124百万円（対前年同期比14.4%減）、仕入債務の増加による収入563百万円（前年同期は仕入債務の減少による支出390百万円）があった一方、売上債権の増加による支出711百万円（前年同期は売上債権の減少による収入500百万円）、たな卸資産の増加による支出144百万円（前年同期はたな卸資産の減少による収入476百万円）、その他による支出138百万円（前年同期はその他による収入10百万円）、法人税等の支払額104百万円（対前年同期比66.9%減）があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動の結果獲得した資金は424百万円(前年同期は481百万円の支出)となりました。

これは主として、定期預金の減少による収入1,000百万円、有価証券の償還による収入1,000百万円(対前年同期比233.3%増)、投資有価証券の償還による収入500百万円があった一方、有価証券の取得による支出701百万円(対前年同期比30.0%減)、投資有価証券の取得による支出934百万円(前年同期は0.3百万円の支出)、有形及び無形固定資産の取得による支出440百万円(対前年同期比57.2%増)があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動の結果獲得した資金は218百万円(前年同期は414百万円の支出)となりました。

これは主として、長期借入れによる収入400百万円、配当金の支払額181百万円(対前年同期比38.2%減)があったことによるものであります。

(3)経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。また同期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5)研究開発活動

当第2四半期累計期間における研究開発活動の金額は、33,946千円であります。

なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

また、当社は、バルブ及び遠隔操作装置製造・販売事業の単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けて記載はしていません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,232,800
計	15,232,800

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年11月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年1月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,832,800	3,832,800	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	3,832,800	3,832,800	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高(千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年9月1日～ 2019年11月30日	-	3,832	-	1,150,000	-	515,871

(5) 【大株主の状況】

2019年11月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
(株)ミヤキタコーポレーション	大阪市中央区安土町2丁目3番13号	442	12.19
中北 健一	兵庫県尼崎市	205	5.66
宮田 彰久	大阪市福島区	114	3.15
黒田 知子	兵庫県芦屋市	114	3.15
中北 仁子	兵庫県尼崎市	114	3.15
渡部 育子	東京都千代田区	114	3.14
宮田 和子	東京都千代田区	109	3.00
宮田 宏章	東京都千代田区	106	2.93
(株)三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	86	2.38
三井住友信託銀行(株)	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号	80	2.21
計	-	1,485	40.96

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 205,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,621,700	36,217	-
単元未満株式	普通株式 5,800	-	-
発行済株式総数	3,832,800	-	-
総株主の議決権	-	36,217	-

【自己株式等】

2019年11月30日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) (株)中北製作所	大阪府大東市深野 南町1番1号	205,300	-	205,300	5.36
計	-	205,300	-	205,300	5.36

(注) 当第2四半期会計期間末日現在の自己名義所有株式数は205,377株、その発行済株式総数に対する所有株式数の割合は5.36%であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2019年9月1日から2019年11月30日まで）及び第2四半期累計期間（2019年6月1日から2019年11月30日まで）に係る四半期財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（2007年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年5月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年11月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	7,279,858	6,699,292
受取手形及び売掛金	2 5,923,651	2 6,427,485
電子記録債権	2 1,899,354	2 2,107,084
有価証券	1,701,070	1,900,507
商品及び製品	1,118,629	1,046,233
仕掛品	1,302,271	1,399,827
原材料及び貯蔵品	1,421,233	1,540,678
その他	523,652	511,995
貸倒引当金	39,130	42,680
流動資産合計	21,130,592	21,590,424
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
土地	1,704,512	1,704,512
その他(純額)	1,379,294	1,704,130
有形固定資産合計	3,083,806	3,408,643
<b>無形固定資産</b>		
	49,994	57,378
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,891,276	2,500,202
その他	387,296	329,100
貸倒引当金	138	138
投資その他の資産合計	2,278,433	2,829,163
固定資産合計	5,412,235	6,295,186
資産合計	26,542,827	27,885,610
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	2 1,285,937	2 1,346,026
電子記録債務	1,909,067	2,412,434
短期借入金	800,000	800,000
賞与引当金	236,000	244,000
製品保証引当金	152,000	150,000
未払法人税等	119,567	233,538
その他	500,343	358,769
流動負債合計	5,002,916	5,544,769
<b>固定負債</b>		
長期借入金	-	400,000
退職給付引当金	178,948	174,589
役員退職慰労引当金	45,160	45,160
資産除去債務	39,187	39,520
その他	29,096	29,096
固定負債合計	292,392	688,366
負債合計	5,295,308	6,233,135

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年5月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年11月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,150,000	1,150,000
資本剰余金	1,479,586	1,479,586
利益剰余金	18,968,283	19,249,364
自己株式	575,339	575,454
株主資本合計	21,022,530	21,303,496
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	224,988	348,978
評価・換算差額等合計	224,988	348,978
純資産合計	21,247,518	21,652,475
負債純資産合計	26,542,827	27,885,610

(2)【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年6月1日 至 2018年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)
売上高	10,147,244	9,265,658
売上原価	8,490,031	7,689,205
売上総利益	1,657,212	1,576,452
販売費及び一般管理費	1,946,637	1,991,085
営業利益	710,575	585,367
営業外収益		
受取利息	8,205	4,793
受取配当金	35,168	33,903
不動産賃貸料	64,388	64,388
為替差益	6,751	842
雑収入	9,331	5,538
営業外収益合計	123,845	109,465
営業外費用		
支払利息	1,750	1,732
不動産賃貸費用	17,795	17,545
雑損失	304	144
営業外費用合計	19,851	19,422
経常利益	814,569	675,410
税引前四半期純利益	814,569	675,410
法人税等	256,182	212,957
四半期純利益	558,387	462,453

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年6月1日 至 2018年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	814,569	675,410
減価償却費	145,957	124,877
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,530	3,550
賞与引当金の増減額(は減少)	10,000	8,000
製品保証引当金の増減額(は減少)	5,000	2,000
退職給付引当金の増減額(は減少)	10,598	4,358
受取利息及び受取配当金	43,374	38,696
支払利息	1,750	1,732
売上債権の増減額(は増加)	500,063	711,564
たな卸資産の増減額(は増加)	476,405	144,604
仕入債務の増減額(は減少)	390,398	563,455
その他	10,080	138,039
小計	1,506,925	337,763
利息及び配当金の受取額	46,859	44,692
利息の支払額	1,760	1,888
法人税等の支払額	314,581	104,114
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,237,442	276,452
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(は増加)	-	1,000,000
有価証券の取得による支出	1,001,905	701,299
有価証券の償還による収入	300,000	1,000,000
投資有価証券の取得による支出	300	934,368
投資有価証券の償還による収入	500,000	500,000
有形及び無形固定資産の取得による支出	280,159	440,483
その他	587	440
投資活動によるキャッシュ・フロー	481,776	424,287
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	-	400,000
配当金の支払額	293,381	181,213
自己株式の取得による支出	121,000	114
財務活動によるキャッシュ・フロー	414,381	218,672
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	341,284	919,413
現金及び現金同等物の期首残高	3,100,840	3,279,858
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 3,442,124	1 4,199,271

## 【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期貸借対照表関係)

## 1 受取手形裏書譲渡高

	前事業年度 (2019年5月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年11月30日)
受取手形裏書譲渡高	2,376千円	- 千円

## 2 四半期会計期間末日満期手形及び電子記録債権

四半期会計期間末日満期手形及び電子記録債権の会計処理については、当第2四半期会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当第2四半期会計期間末日満期手形及び電子記録債権の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年5月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年11月30日)
受取手形	- 千円	85,289千円
電子記録債権	-	55,072
支払手形	-	16,337

(四半期損益計算書関係)

## 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年6月1日 至 2018年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)
運賃荷造費	224,346千円	211,585千円
給料手当	281,534	291,796
賞与引当金繰入額	62,701	63,634
退職給付費用	9,915	12,232
研究開発費	26,573	33,946

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

## 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期累計期間 (自 2018年6月1日 至 2018年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)
現金及び預金勘定	7,442,124千円	6,699,292千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	4,000,000	3,000,000
有価証券勘定に含まれる現金同等物	-	499,979
現金及び現金同等物	3,442,124	4,199,271

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自2018年6月1日 至2018年11月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年8月29日 定時株主総会	普通株式	293,400	80.00	2018年5月31日	2018年8月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年1月10日 取締役会	普通株式	181,375	50.00	2018年11月30日	2019年2月8日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自2019年6月1日 至2019年11月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年8月28日 定時株主総会	普通株式	181,373	50.00	2019年5月31日	2019年8月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年1月9日 取締役会	普通株式	181,371	50.00	2019年11月30日	2020年2月7日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、バルブ及び遠隔操作装置製造・販売事業の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年6月1日 至 2018年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)
1株当たり四半期純利益	153円45銭	127円49銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	558,387	462,453
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	558,387	462,453
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,638	3,627

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2020年1月9日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....181,371千円

(ロ) 1株当たりの金額.....50円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2020年2月7日

(注) 2019年11月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年1月8日

株式会社中北製作所  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 坂本 潤 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大好 慧 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社中北製作所の2019年6月1日から2020年5月31日までの第94期事業年度の第2四半期会計期間（2019年9月1日から2019年11月30日まで）及び第2四半期累計期間（2019年6月1日から2019年11月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社中北製作所の2019年11月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。